

事業所における自己評価総括表\_放課後等デイサービス

○事業所名	インクルーかみね教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日	～	2026年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 16日	～	2026年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	教室内の空間を分けることで、児童の目的に合わせた療育を図ることができている。	教室内の空間を分けることで個別または小集団型の支援を行うことができている。また、事前に児童それぞれの目的や目標ごとに部屋を分けることで課題の難易度や内容を調整しながら支援に取り組んでいる。	課題ごとに達成度を確認し、課題の難易度や内容を調整していくとともに、児童が活動を通して得意なことや興味のあることを発見することができるように支援していく。
2	定期的なケース会議や支援会議を行うことで、職員が児童の情報を把握するとともに、児童や保護者のニーズに合わせた支援を心がけている。	毎週ケース会議や支援会議を行うことで児童の情報を確認するとともに、職員間での意見交換を実施している。また、療育の中での悩みがあった際には職員間で共有し、よりよい支援ができるように心掛けている。	引き続きケース会議や支援会議を重ねていくとともに、保護者や関係機関とのやり取りも密に行うことで支援の質を上げていきたい。
3	毎月実施される職員向けの研修を受講したうえで、研修内容を職員間で共有し、日々の療育の中での悩みを話し合うことができている。	研修に参加することで知識を身につけるだけでなく、それぞれの観点から悩みを共有し、解決することができる。	引き続き研修の受講並びに支援についての話し合いを重ねることで、よりよい支援ができるように心掛けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員向け研修での具体的内容が保護者に伝わりにくい状態である。	職員向けの研修の様子については保護者会のみで知らせている状態のため、日頃の取り組みが周知しにくい状態である。	職員向け研修の様子もインスタやブログを通して公開していきたい。
2	保護者との日頃の情報共有や相談は実施されているが、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会が設けられていないため、教室内での取り組み等が分かりにくい状態となっている。	家族に対する家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会が設けられていないため。	今後は送迎時のやり取りやサービス提供記録だけでなく、保護者と職員が密にやり取りを重ねるとともに、家族に対する家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会を設けていく。
3	地域交流の機会が少ない。	事業所として周知されていない部分や、やり取りが少ないことが要因である。	今後、イベントや療育を通して地域交流の機会を設けていきたい。

事業所における自己評価総括表\_保育所等訪問支援

○事業所名	インクルーかみね教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日	～	2026年 3月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日	～	2026年 3月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 1名	(回答者数)	1名
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 1日	～	2026年 3月 16日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 1名	(回答者数)	1名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々保護者や学校等関係機関とのやり取りを重ねること でいただいた声を反映することができるように心掛けている。	定期的に保護者との面談や関係機関との情報交換を行う ことで支援に反映することができるように心掛けている。また、 いただいた声を職員間でも共有することで支援の統一性を 心がけている。	引き続き保護者や関係機関との連携を図るとともに、職員 間でも情報を共有しながら支援に臨みたい。
2	訪問先での児童の様子や関係機関とのやり取りのなかでの 気づきを教室内での支援に反映している。	訪問時の児童の様子を訪問員から保護者だけでなく職員 に共有することで支援の方向性を統一し、児童それぞれ に適した目標設定を心がけている。	引き続き保護者や関係機関との連携を図るとともに、職員 間でも情報を共有しながら支援に臨みたい。
3	保護者や児童、関係機関からの声を反映している。	初回のアセスメントや訪問前の打ち合わせを綿密に行うこ とで、訪問員だけでなく教室内の職員もいただいた声をも とに支援ができるように心掛けている。また、保護者から のニーズを元に訪問先でのやり取りを行うように心掛けて いる。	引き続き保護者や関係機関との連携を図るとともに、職員 間でも情報を共有しながら支援に臨みたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問員やスタッフが変えることによる保護者や関係機関か らの不安。	職員の異動等につき担当スタッフが変えることが何度か あったため、保護者や関係機関からの不安の声があっ た。	できるだけ職員の固定化を目指すとともに、訪問員やス タッフが変わる際には綿密な引継ぎを行うことで保護者や 関係機関の不安を軽減していく。
2	訪問員自身の業務理解への不安。	訪問員がまだ経験が少ないため業務理解が追いついてい ない部分や不安要素があるとのこと。	教室内だけではなく施設全体で業務について振り返る時 間を設けるとともに、訪問員の不安解消を目的とした聞き 取りを定期的に行う。
3	地域の協議会等への参加があまり実施されていない。	地域とのつながりを深めるための情報収集や働きか けが不足している。	今後イベント等を通して地域活動への参加を検討し、関 係機関との連携強化を目指す。